瘠我慢の説

書簡

福沢諭吉

青空文庫

福沢先生の手簡

拝啓仕候。陳ば過日瘠我慢之説と題したる草稿一冊を呈し候。或は御一読も被成下候哉。其節申上候通り、何れ是は時節を見計、世に公にする積に候得共、尚熟考仕候に、書中或は事実の間違は有之間敷哉、又は立論之旨に付御意見は有之間敷哉、若しこれあらば無御伏臓被仰聞被下度、小生の本心は漫に他を攻撃して楽しむものにあらず、唯多年来心に釈然たらざるものを記して輿論に質し、天下後世の為めにせんとするまでの事なれば、当局の御本人に於て云々の御説もあらば拝承致し度、何卒御漏し奉願候。要用のみ重て申上候。匆々頓首。

二月五日

諭吉

……様

尚以彼の草稿は極秘に致し置、今日に至るまで二、三親友の外へは誰れにも見せ不申候。是亦乍序申上候。以上。

勝安芳氏の答書

従古当路者古今一世之人物にあらざれば、衆賢之批評に当る者あらず。不計も拙老先年之行為に於て御議論数百言御指摘、実に慙愧に不堪」の注記」ず、御深志忝存候。行蔵は我に存す、毀誉は他人の主張、我に与からず我に関せずと存候。各人へ御示御座候とも毛頭異存無之候。御差越之御草稿は拝受いたし度、御許容可被下候也。

二月六日　　安芳

福沢先生

拙、此程より所労平臥中、筆を採るに懶く、乱筆蒙御海容度候。

榎本武揚氏の答書

拝復。過日御示被下候貴著瘠我慢中、事実相違之廉並に小生之所見もあらば云々との御意致拝承候。昨今別而多忙に付いずれ其中愚見可申述候。先は不取敢回音如此に候也。

二月五日　　武揚

福沢諭吉様

青空文庫情報

底本：「明治十年丁丑公論・瘠我慢の説」講談社学術文庫、講談社
1985（昭和60）年3月10日第1刷発行
1998（平成10）年2月20日第10刷発行
底本の親本：「明治十年丁丑公論・瘠我慢の説」時事新報社
1901（明治34）年5月2日発行
初出：「明治十年丁丑公論・瘠我慢の説」時事新報社
1901（明治34）年5月2日発行
※副題の「書簡」は、このファイル作成時に付けたものです。
※誤り箇所は底本の親本にて確認しました。
※「福沢先生の手簡」の末尾、「申上候《もうしあげそうろう》。以上。」は、底本の親本では、「申上候也。」となっています。
入力：kazuishi
校正：田中哲郎
2006年11月7日作成
青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

瘠我慢の説

書簡

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　福沢諭吉
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/